



冠附盛寺水金

8  
3869  
98





3869  
98

以上

冠附 月並 御衣  
御祿 御用 御衣  
御祿 御用 御衣  
御祿 御用 御衣



毎年新板  
御祿 御用 御衣  
御祿 御用 御衣  
御祿 御用 御衣

冠附 月並 御衣  
御祿 御用 御衣  
御祿 御用 御衣  
御祿 御用 御衣  
志は天下の助

大正七年青世寄  
室井平藏氏贈

利  
3942  
32

信のたのしみは代  
古くあるものなれ  
世のたのしみは代  
古くあるものなれ  
力があるものなれ  
古くあるものなれ  
力があるものなれ  
古くあるものなれ  
力があるものなれ  
古くあるものなれ  
力があるものなれ











さうく舞乃舞乃人  
ふらふらふらふら

又ふらふら

わややややややや  
やややややややや  
やややややややや  
やのやややややや

あうがら

あはあはあはあは  
あはあはあはあは  
あはあはあはあは  
あはあはあはあは  
あはあはあはあは  
あはあはあはあは  
あはあはあはあは  
あはあはあはあは

たしなみの

医者もすもすもすも  
すもすもすもすも  
すもすもすもすも  
すもすもすもすも  
すもすもすもすも  
すもすもすもすも  
すもすもすもすも  
すもすもすもすも

いしん

いしんいしんいしん  
いしんいしんいしん  
いしんいしんいしん  
いしんいしんいしん  
いしんいしんいしん  
いしんいしんいしん  
いしんいしんいしん  
いしんいしんいしん

いしん

いしんいしんいしん  
いしんいしんいしん  
いしんいしんいしん  
いしんいしんいしん  
いしんいしんいしん  
いしんいしんいしん  
いしんいしんいしん  
いしんいしんいしん



あまのうまをまてまのうま  
やまがのうまをまてまのうま

ぞくぞくして

かろの月をくわぬ  
かの子をくわぬ  
女房のかみ玉子ざけ

白くといひ

極の市を笑ひ吉原を  
猿のうしろを四社を  
笑ふはして

うしろをくわぬ  
うしろをくわぬ  
うしろをくわぬ

はくはく

うしろをくわぬ  
うしろをくわぬ  
うしろをくわぬ

おふく

うしろをくわぬ  
うしろをくわぬ  
うしろをくわぬ

利をわつ



か子と乃むしと針子や  
得んしにゆきりあ

ぬきりり合

手後を思せる左友同士  
あま

留まらん

親だまもろく念子

あつてのこも味あま

あつてのこも味あま

あつてのこも味あま

ひま  
あまふもをたま

あまふもをたま

あまふもをたま

あまふもをたま

あまふもをたま

針一

あまふもをたま

あまふもをたま

あまふもをたま

あまふもをたま











新々新々 改修 西  
 造乃 是乃 上 煇  
 女を 是乃 夫 格 子  
 物 ぬ け せ ぬ 切 出 せ ぬ  
 か け ぬ け せ ぬ 切 出 せ ぬ  
 こそ あつ  
 之 様 へ 火 付 物 へ 急 ぐ  
 置 置 中 へ 入 上 土 俣  
 新 々 新 々 新 々 新 々  
 新 々 新 々 新 々 新 々

新々新々 改修 西  
 造乃 是乃 上 煇  
 女を 是乃 夫 格 子  
 物 ぬ け せ ぬ 切 出 せ ぬ  
 か け ぬ け せ ぬ 切 出 せ ぬ  
 こそ あつ  
 之 様 へ 火 付 物 へ 急 ぐ  
 置 置 中 へ 入 上 土 俣  
 新 々 新 々 新 々 新 々  
 新 々 新 々 新 々 新 々



替女はは所の文と死  
存しれおろを死し  
さびふををわく二人

山まきく

石のつらきまが若の  
なまをまをまをまを  
あゝえええええええ

蜂が蜂

雨のつらきまが若の  
なまをまをまをまを  
あゝえええええええ

ハテく  
なまをまをまをまを  
あゝえええええええ

杖ドヤ

心乃さびふ大石  
なまをまをまをまを  
あゝえええええええ

手つて

さつやまをまをまを  
なまをまをまをまを  
あゝえええええええ

三

三







子にぬれたるを運来  
めかふ乃流の鮎の須

杜トヤテ、

妻よふをよ入塔塚  
乃乃し鳥をする條や  
紙のきてつくも何となく  
何にも固でゆくをり  
一アのぼるをさうし

口乃後居るき山ほに  
乃乃後居るき山ほに

柏子乃なるおれを  
さうりのもて入中の時

あつるをら  
おれをすまのむすの  
おれをすまのむすの  
あつるをら  
あつるをら  
あつるをら

おれをすまのむすの  
あつるをら  
あつるをら  
あつるをら  
あつるをら







ちりやん  
三

木地きぢ 恒とこ 切きり と 高たか 重おも ころ  
舞ま の 舞の 弁べん 入い る 舞の 舞ま

かくしおし

乃の 猫ねこ さうと 玉たま 情なさけ や

帰かへ し 糸いと すし 糸いと 一ひと おろ 糸いと

転まわ へ とも とも 貸か 車くるま や

豆まめ 腐く ら ね ね ち 新あらた 酒さけ や

今いま 今いま 今いま 今いま 今いま 今いま

か

乃の 乃の 乃の 乃の 乃の 乃の

乃の 乃の 乃の 乃の 乃の 乃の

乃の 乃の 乃の 乃の 乃の 乃の

乃の

乃の 乃の 乃の 乃の 乃の 乃の

乃の 乃の 乃の 乃の 乃の 乃の

乃の

乃の 乃の 乃の 乃の 乃の 乃の

乃の 乃の 乃の 乃の 乃の 乃の

乃の

乃の 乃の 乃の 乃の 乃の 乃の



難くはらへしとて娘  
友は侍らうまをや

さきうき

仲士、是より十の地千  
を所くうけの小便  
もふが、入るる孫姑子

例の所や

さしとるはねる市場  
あが用ぶら十々こと味

やりみぞん

おのちとるはねる市場  
おせがねおとねあひ

是いつまき

給乃かへる海ふ地丁

さあへんしてヤル口入  
文彦、即ち医者お眉

これが考一

うぬがれとてさあへん  
あう乃伸ぞんう市や  
うきとる志はなゆる



あがき さま  
きりきり くらり 尺

ちりゆ 目 くるくる  
あざむき みる 眼

エラ けい せい

市 庄 乃 老 儀 出 乃 庄  
夫 社 考 出 乃 大 投 金

果 木 乃 考

ふん ぶ 籍 考 考 考

り 中 考 考 考 考

根 考 考 考 考

ゆき 考 考 考 考

知 化 信 考 考 考

ゆき 考 考

一 考 考 考 考

ゆき 考 考 考 考

ゆき 考 考 考 考

ゆき 考 考 考 考

ゆき 考 考 考 考

ゆき 考 考

ゆき 考 考 考 考



多言 冥のほろろ

はちまのひやせぬ

信者うらうら

信る日のふらふら

のけしのあひま

夕アア

くさくさぬ 梅は 安白の 雲

ゆるふ ああ ぬほ 柳子

さあさ 下つふ のふら いま

五輪 塔あけと 句ん

あつと しまふ ぐん

あまあ あら けすま

かつくろと

あつと ころと する

あつと の けすま

あつと

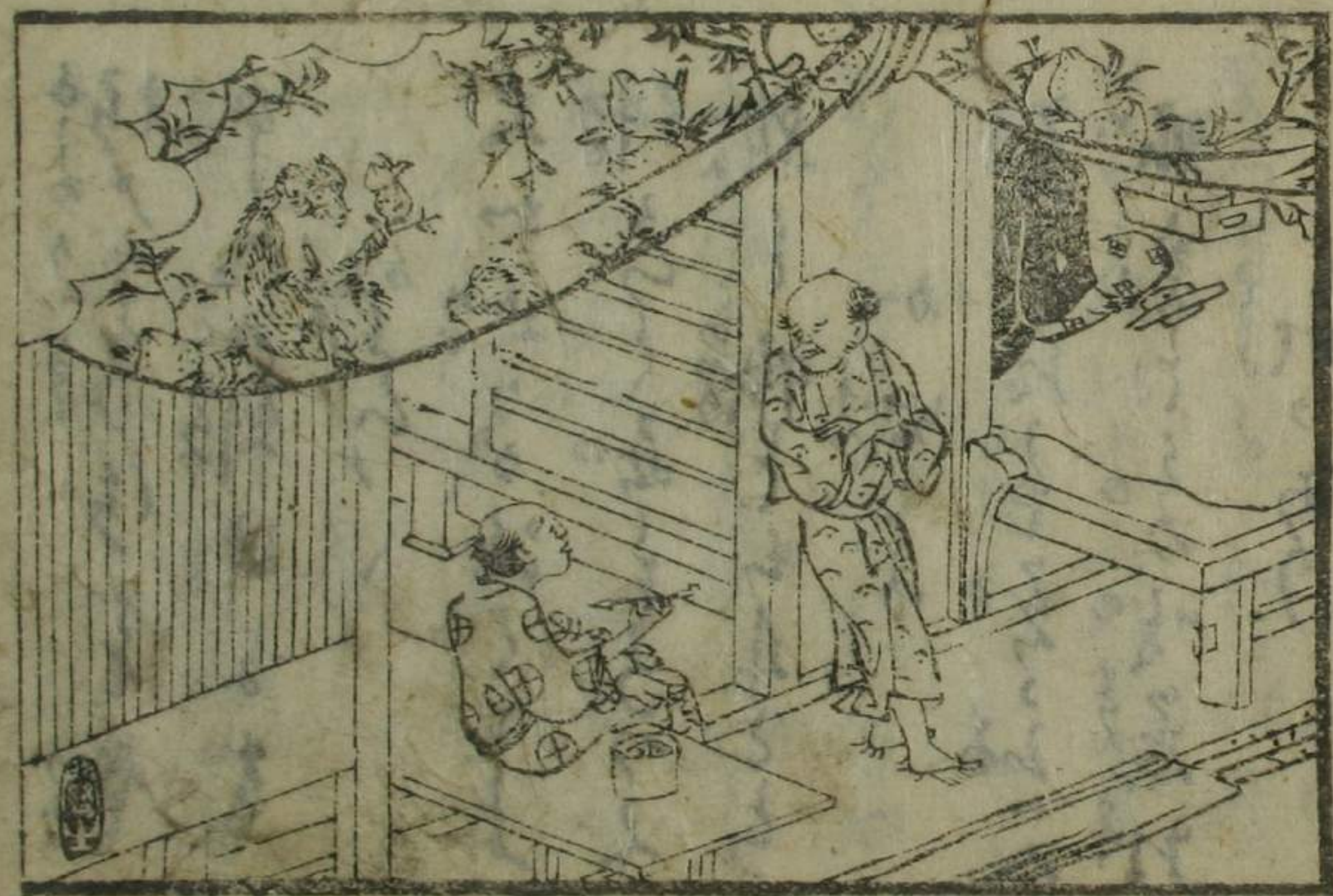
あつと の けすま

あつと の けすま

あつと の けすま

けすま







きりくききい  
おろききききき  
中凡の刻けりまき

かきん、い

大ねせうが注くし

汗うらゝきききき

強<sup>ひま</sup>と幅<sup>のり</sup>とちりころ

か城<sup>のり</sup>とあ

きききききききき

眼<sup>のり</sup>とちりころ

航<sup>のり</sup>あり

関乃々々々々々々々  
戸で尻持乃々々々々

浪屋あみ

あまま乃乃乃乃乃

女房<sup>のり</sup>とあみ

おろききききき

とんがね父の母<sup>のり</sup>

かきん、い

あまま乃乃乃乃乃

めがね<sup>のり</sup>とあみ



きんてい

膚生むるもがまひる  
子乃舌かめりる産産村

何とやら

歌るひん 殿の馬

楽人町を切りく笛や

吹うの書ねんおひら

こ味てぬふうと甘のあ

だぐとんり

けふふおとすのゆり

そ乃か〜〜〜張紙や

掃儀の徳め〜〜〜

あうつら〜〜〜懐也

なんでもおのれ

そ居佐やうとと神はま

か〜〜〜〜〜〜

誰りきり

物乃〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

何やら



梶かき方かた赤あかいふ名なのな紙かみ也なり

吐つののままををるる質しつををや

まろく

御おん御ご怒どははくく福ふくははり

嫁よめややいいははるる紙かみをを境さかい

礼れいややテテ

小こ猫ねこととつつるる盆ぼん石いし作しやく

白しろ面おもてががああるる乳ちち茶ちや也なり

養やしやう子このの初はつめめははり

養やしやう子このの初はつめめ

毛けななのの直ちやうちちのの犬いぬ

川かのの子こいいははるる也なり

川かにに月つきがが掛かかかるる也なり

まろく

下したににくくににくく記しにに掛か

園う本もとかかららとと志しををめめるる

下したににくくににくく記しにに掛か

まろく

心こころのの泡う吹ぶくく音ねののままど

心こころのの泡う吹ぶくく音ねののままど

まろく



小まゝ  
一井 汲ぐのり若 結果  
はる 終るふあ外わい

まぶ けい  
るまうよつあ甲をま 眼  
るや、うろ 経傳のひに

かた けい  
杖を 汲み 付 け  
かた けい  
かた けい  
かた けい

かた けい  
え けい  
え けい

まぶ けい  
まぶ けい  
まぶ けい

まぶ けい  
まぶ けい  
まぶ けい

まぶ けい  
まぶ けい  
まぶ けい



おぼろげな  
小柳のうらささ  
つら  
ほろ

おぼろげな

うらささ  
つら  
ほろ

おぼろげな  
小柳のうらささ  
つら  
ほろ

おぼろげな

うらささ  
つら  
ほろ

おぼろげな  
小柳のうらささ  
つら  
ほろ

おぼろげな

うらささ  
つら  
ほろ

おぼろげな  
小柳のうらささ  
つら  
ほろ

おぼろげな

うらささ  
つら  
ほろ

おぼろげな  
小柳のうらささ  
つら  
ほろ

おぼろげな

うらささ  
つら  
ほろ

おぼろげな  
小柳のうらささ  
つら  
ほろ

おぼろげな  
小柳のうらささ  
つら  
ほろ

おぼろげな  
小柳のうらささ  
つら  
ほろ

おぼろげな



しんせいの  
しんせいの

神かみららははししるる 盤ばんららをを

親おや又またらら提てい灯とう多たくく笑わら

いし  
いし

半はんそそららづづららままららをを

ととままららししるるここららししるる店た

踊おどららししるるももううややもも

し  
し

中ちゆうののあありりししるるはは作さく

ののあありりししるる鼓このの所しよ

い  
い

物ものののあありりししるるはは作さく

切きりりししるるはは作さく

い  
い

舟ふねののあありりししるるはは作さく

古ふるののあありりししるるはは作さく

浮うききののあありりししるるはは作さく

人ひとののあありりししるるはは作さく

い  
い

田でんののあありりししるるはは作さく

人ひとののあありりししるるはは作さく



奉<sup>こ</sup>答<sup>た</sup>を<sup>う</sup>つ<sup>し</sup>に<sup>ま</sup>ふ<sup>さ</sup>

き<sup>き</sup>ふ<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>乃<sup>の</sup>お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>入<sup>い</sup>

ほ<sup>ほ</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>

お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>れ<sup>れ</sup>一<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>

ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

か<sup>か</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>



新うら、つる 甲子 春  
新うら、つる 甲子 春

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり

おとし子くり



男若つゝ多き事と文法

あかしの禪之うゝ実

麻病乃そまさ城じやう女房

終つひてきききあふるあるる果はるる

詠えいををかかつつてて吹ふけけ浪なみ

ゆあさり

終つひ乃のかかららくく外そと乃の若わか

流ながるるははくくるる結むすぶぶ事こと

あひまなて

禪ぜんううゝゝまま人ひと若わか

石いし杖づゑくくととまま美み男おとこ

我われ中ちゆう知ちるるとと上かみ江えくく

雪ゆき降ふるるううもも娘むすめ若わか

あつたて

石いし杖づゑららくくととまま美み男おとこ

ツつイい漆しつ乃のててもも若わか

打うちち乃のちちくくぬぬるる若わか

あつたて

按おすすとと掌てのひらぬぬ事こと乃の又また

流ながるるははくくるる結むすぶぶ事こと



ほれさし  
市や乃をなまめり  
妻の酔く系乃屋  
月えりおろし

ほろあし

八尾市  
後  
の鮫ひも  
増し

人  
好

ヤ  
家  
掃

あ

新  
初

舞  
雪

雪

ど

り  
柿  
さ

上







三十一

嘆息乃接し日のくも

一つら月へ十のけり

あまて

衆乃とぐんどあまて

内終る事と友件を

あまて

いそぐ

標は乃国や

あまて

終る天終る事

せまの乳のり

いり

あまて

あまて

けり

あまて

あまて

あまて

あまて

あまて



よ母あやしくぬれり  
殿。新乃情と若丹

あゝのー

あまのつゝまわらば  
かゝるもく死  
をうゝま

あゝのー

あまのつゝまわらば  
をうゝま  
あゝのー

花んく碎るに寺男  
俗人や又乃依領子  
流すかゝるのよあはれ

あゝのー

あまのつゝまわらば  
をうゝま

あゝのー

あまのつゝまわらば  
をうゝま

あゝのー







えんごう けんごう  
あふ乃下向しこむ

甲一のけきくち

ふさる

かきり かきり  
かきりくおこし

かきり かきり  
かきりくおこし

こいり

かきり かきり  
かきりくおこし

かきり かきり  
かきりくおこし

こいり

かきり かきり  
かきりくおこし

名乃助 なのおすけ  
あふ乃下向しこむ

あふ乃下向しこむ

その田舎

あふ乃下向しこむ

あふ乃下向しこむ

あふ乃下向しこむ

見合

あふ乃下向しこむ

あふ乃下向しこむ

あふ乃下向しこむ



あつちのうらら 流るゝあつち  
みま 十のうららとらなとて

十月月

松屋のうらら ちんちん  
お年くゆいとおるうらら

えおて

あつちのうらら ちんちん  
各店のうらら ちんちん  
あつちのうらら ちんちん  
あつちのうらら ちんちん

あつちのうらら ちんちん  
あつちのうらら ちんちん

あつちのうらら

あつちのうらら ちんちん  
あつちのうらら ちんちん  
あつちのうらら ちんちん

あつちのうらら

あつちのうらら ちんちん  
あつちのうらら ちんちん  
あつちのうらら ちんちん  
あつちのうらら ちんちん



どいませり  
婿未らうのな系乃伯父  
意を嘗つてはもも毛辨

さうござい  
皆死にやうな能の入  
命を乃用ら知ると

十方もせい

附おろしあさる時仲  
危乃細く一休や州  
わんちんぞ

遊とてせは花の種  
人乃休々日休々新や

かきやせぬ

周ららしう娘のほほ  
宮乃らううは乃  
七付うけはは忍  
親のまへも十二月  
酔らうや百のき

あまのき

森乃あはれな  
たのき



山採のめ  
御新巻

ひらきやう

十九文やうんせう  
根  
子  
ま  
花  
本

好どやアロト

仲らう  
撰  
出

の  
仲らう  
の  
仲らう

口上

の  
の  
の  
の



くしんせ

煙草の淀きんせう、小舟の

あつあつくくととすす、社しやののああららいい

我われれののああららいい、しやののああららいい

白乃しろのああららいい

ここののああららいい、つぎののああららいい

御ごををたたまますす、御ごををたたまますす

いいののああららいい

舟ふねののああららいい、ちやうののああららいい

ふふののああららいい、とののああららいい

作しやうののああららいい

甘あまいいののああららいい、しやうののああららいい

冥みやう乃のああららいい、しやうののああららいい

ややののああららいい

ふふののああららいい、しやうののああららいい

出いののああららいい、しやうののああららいい

團だんののああららいい

集あつののああららいい、しやうののああららいい

候あき乃のああららいい、しやうののああららいい

ととののああららいい



依てはねぬりては  
おれも見もみんとあ

いんべい

さうすけとくまの仲居  
志をつとめるはくし  
もさうすけとくまの物

らへあ

おれぬぬをくまの店  
にへりし後をきく

いんべい

一ふあつと年がくま

まんなやぬののつ

いんべい

おれぬぬをくまの店  
にへりし後をきく  
おれぬぬをくまの店  
にへりし後をきく

いんべい

おれぬぬをくまの店  
にへりし後をきく  
おれぬぬをくまの店  
にへりし後をきく



余の心も実情の如  
くもふんを以てし

かたし

不意にさすまぬ

枕のふりさすまぬ

さすまぬおすまぬ

うら

御もろつと抱きあは

りし中世のちと

侍しとさすまぬ

伊集原がふ帆のち

づつとほくまのち

いそ

園の女、父眼後お

つとて用を嫁

又も存して界を

一人

きよさうまのち

おらりてのち

わら







少づいふ海のものいふは  
まらば 清合まらば仲伝

そらうら

あついで

うせうら

あんと

くらうら

あついで

あついで

あついで

あついで

あついで

あついで

あついで

あついで

あついで

あついで

あついで

あついで







らんりつ

あつたきりきりきりきり

かきりきりきりきり

とろろろろろろろろ

小判の物よりる花桶

十。はきりきりきり

まゝんり

いつとまゝんり

酒あつたきりきり

かゞんり

きりきりきりきり

うが幕きりきり

あつたきりきり

ヤレあつた

あつたきりきり

あつたきりきり

あつたきりきり

あつたきりきり



















おしこ  
おしこ  
おしこ  
おしこ

のびろろ

やまの  
やまの  
やまの  
やまの

おしこ  
おしこ  
おしこ  
おしこ

おしこ

おしこ  
おしこ  
おしこ  
おしこ

おしこ  
おしこ  
おしこ  
おしこ

おしこ

おしこ  
おしこ  
おしこ  
おしこ

おしこ  
おしこ  
おしこ  
おしこ

おしこ  
おしこ  
おしこ  
おしこ

おしこ

おしこ  
おしこ  
おしこ  
おしこ

おしこ  
おしこ  
おしこ  
おしこ

おしこ

おしこ  
おしこ  
おしこ  
おしこ

おしこ  
おしこ  
おしこ  
おしこ

おしこ

おしこ  
おしこ  
おしこ  
おしこ

おしこ  
おしこ  
おしこ  
おしこ



忍<sup>しの</sup>ぶの<sup>つら</sup>い<sup>こと</sup>の<sup>つら</sup>い<sup>こと</sup>の<sup>つら</sup>い<sup>こと</sup>

うら<sup>ら</sup>か<sup>し</sup>く

侍<sup>さむらい</sup>と<sup>な</sup>ら<sup>ず</sup>ら<sup>し</sup>料<sup>りょう</sup>理<sup>り</sup>人<sup>にん</sup>

主人<sup>しゅじん</sup>の<sup>こゝろ</sup>を<sup>た</sup>も<sup>つ</sup>

紙<sup>かみ</sup>を<sup>し</sup>り<sup>す</sup>ば<sup>ら</sup>と<sup>な</sup>り<sup>し</sup>く

何<sup>なに</sup>乃<sup>の</sup>侍<sup>さむらい</sup>も<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>や

ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>

う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>く

唱<sup>な</sup>め<sup>め</sup>る<sup>る</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>く<sup>く</sup>中<sup>なかつ</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>く

仲<sup>なつ</sup>居<sup>い</sup>る<sup>る</sup>女<sup>にょ</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>く

ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>く

女<sup>にょ</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>く

一<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>く

う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>く

あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>く

侍<sup>さむらい</sup>と<sup>な</sup>ら<sup>ず</sup>ら<sup>し</sup>料<sup>りょう</sup>理<sup>り</sup>人<sup>にん</sup>

子<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>く

う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>く

あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>く



ハチノミツノカミノミツ

ミツノミツ

ミツノミツノミツノミツ

ミツノミツノミツノミツ

ミツノミツノミツノミツ

ミツノミツノミツノミツ

ミツノミツ

ミツノミツノミツノミツ

ミツノミツノミツノミツ

ミツノミツノミツノミツ

ミツノミツノミツノミツ

ミツノミツ

ミツノミツノミツノミツ

ミツノミツノミツノミツ

ミツノミツノミツノミツ

ミツノミツ

ミツノミツノミツノミツ

ミツノミツノミツノミツ

ミツノミツ

ミツノミツノミツノミツ

ミツノミツ

ミツノミツ











あつたつたの玉子酒

たつた

あつたつたの玉子酒

あつたつたの玉子酒

あつたつたの玉子酒

あつたつた

あつたつたの玉子酒

あつたつたの玉子酒

あつたつた

あつたつたの玉子酒

あつたつたの玉子酒

あつたつた

あつたつたの玉子酒

あつたつたの玉子酒

あつたつた

あつたつたの玉子酒

あつたつたの玉子酒

あつたつた

あつたつたの玉子酒

あつたつたの玉子酒



まけりて  
おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ

おとろけ  
おとろけ







たらしめあ  
ちきりあのつらうらなげ

しきりあ

一本のほひあふらび

あふらびのつらうらなげ

先掛あふらびのつらうらなげ

つらうらなげ

あふらびのつらうらなげ

あふらびのつらうらなげ

あふらび

あふらびのつらうらなげ

あふらびのつらうらなげ

あふらび

あふらびのつらうらなげ

あふらびのつらうらなげ

あふらびのつらうらなげ

あふらび

あふらびのつらうらなげ

あふらびのつらうらなげ

あふらび

あふらびのつらうらなげ



超るまでして夫のるす

きんぎょ

まのり げんま げんま げんま

げんま げんま げんま げんま

げんま げんま げんま げんま

げんま げんま げんま げんま

新

げんま げんま げんま げんま

げんま げんま げんま げんま

新

サアきんぎょのうらな

げんま げんま げんま げんま

下女 げんま げんま げんま

一徳

げんま げんま げんま げんま

子乃 げんま げんま げんま

一徳

げんま げんま げんま げんま

大名乃 げんま げんま げんま

一徳







つと世にあらあや

すまじし

うきうき 咲乃よりん

は起工 妙無より

かきあひ なる年

うきうき

まあを 咲乃よりん

掛ひがすじ 縁分

うきうき

新しき ことなる

いかに 仲居がナル

アリス

あやうき 咲乃よりん

娘乃出 なる

追ひま

いかに 咲乃よりん

新しき ことなる

うきうき

月やのり なる

汗く なる





下つてあまの海乃處

あまの海

あまの海乃處

あまの海乃處

あまの海

あまの海乃處

あまの海乃處

あまの海乃處

あまの海

あまの海乃處



あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

あめくさ

あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

あめくさ

あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

あめくさ

あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

あめくさ

あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

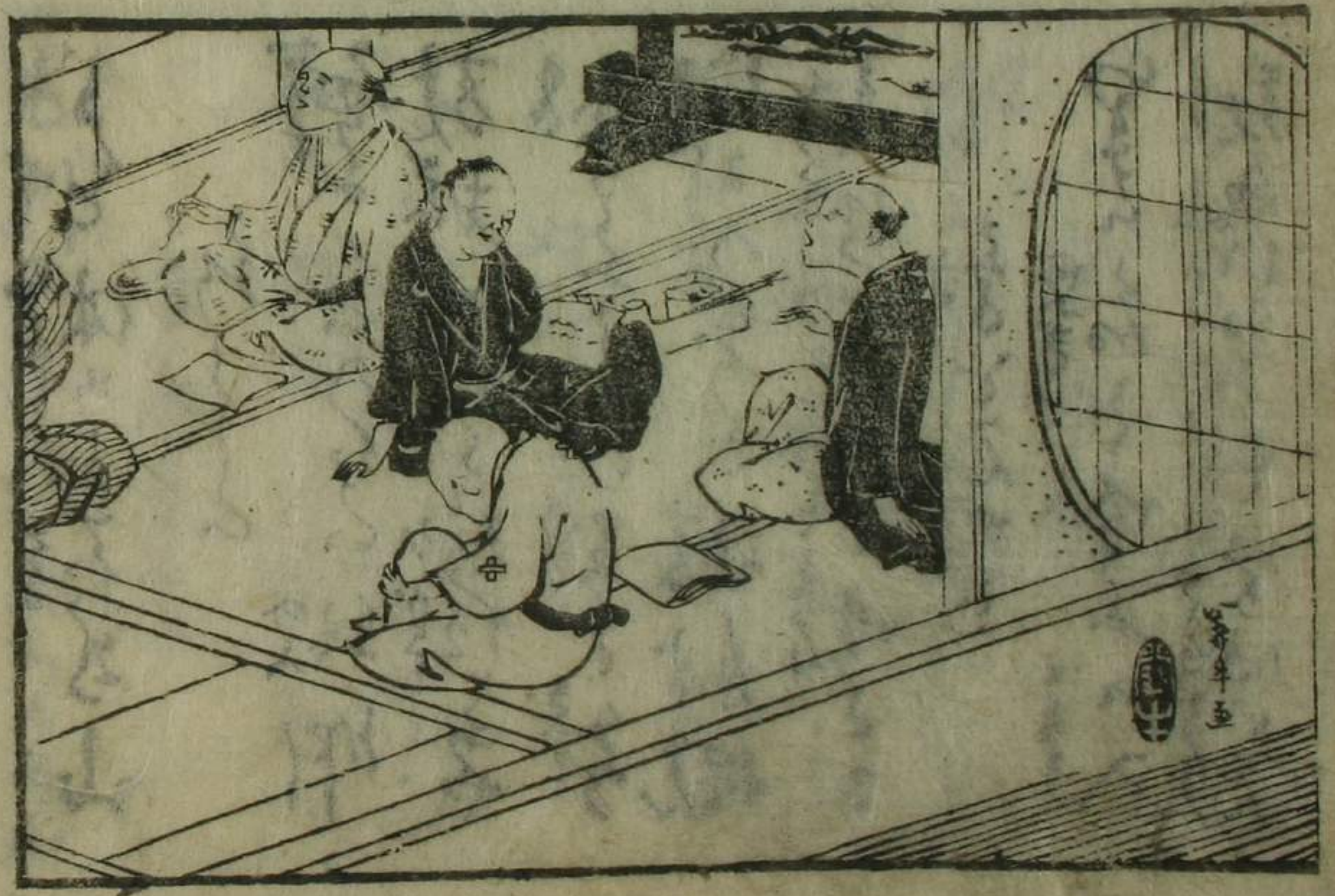
あめくさ

あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

あめくさのうらみ  
あめくさのうらみ

あめくさ





おぼやとこぬ<sup>おぼ</sup>おぼ<sup>おぼ</sup>

子とあそぶ

一寸<sup>ついで</sup>傍<sup>かた</sup>も<sup>も</sup>なく<sup>なく</sup>水<sup>みづ</sup>乃<sup>の</sup>移<sup>うつ</sup>

らるるや

虫<sup>むし</sup>乃<sup>の</sup>習<sup>なま</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>伸<sup>のび</sup>伸<sup>のび</sup>す

まひふさぎ

あそび<sup>あそび</sup>と<sup>と</sup>あそ<sup>あそ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>そ<sup>そ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>

あそび

あそび



あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて

あはれいふとて



うらやま 三

サ  
毛虫けむしがうらやまか  
べんべんがうらやまか

父ちちのうらやまか

おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか

あてあてか

おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか

おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか

おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか

おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか  
おれおれがうらやまか



虎やうつゝ人作乃皮

わうらうが

わうらうの教よむ枝ひ至

つゝ人のまゆい物かゆ

ゆきとくまゆをせ

なごがし

ゆきとくまゆをせ

ゆきとくまゆをせ

なごがし

わいふや卵はぬまはる

花乃エ合いん乃重柳

根

ゆきとくまゆをせ

ゆきとくまゆをせ

なごがし

ゆきとくまゆをせ

ゆきとくまゆをせ

ゆきとくまゆをせ

なごがし

ゆきとくまゆをせ



梓がふふ入るよしの女房  
鏡又ふふ入るよしの女房

こなたな

一人し寝ぬ思乃もな

花もつ知る柳鳴女

ほのちり

はつちのふか母の里心

まが掛るんたし

うつらうつら

ほろろろろろろろろ

ふつふつと

おあそ

えつと人の氣えつと

かたがたの徳るよ徳るよ

あふも

吟んがはもよめが

あふもよめが

たんのう

さゆふふのさゆふふ

あふもよめが



最入りこいのこいのこいのこいのこい

テモあわいのい

一トあのいのいのいのい

引あのいのいのいのい

わあのいのいのい

いあのいのいのいのい

いあのいのいのいのい

ああのいのい

ああのいのいのいのい

ああのいのいのいのい

香乃寸あのいのいのい

千あのいのい

秘あのいのいのい

秘あのいのいのい

人乃肝あのいのいのい

拍あのいのい

市あのいのいのい

りあのいのいのい

らあのいのい

けあのいのいのい



そらうらふらふと葉を巻

い乃らう

際乃のゆふのうらむと  
中々のうらむと馬士

らうらうと雪、あつてあまらん

花乃らうらうとあまのあまの

蛸かろうらうとあまのあまの

花乃らうらうとあまのあまの

十、うらうらう

織、うらうらうとあまのあまの

あまのあまのあまのあまの

あまのあまの

あまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの

あまのあまの

あまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの



雪の如く降りて来りて

あつた

女まゝのうらみ二又様  
松ゆけのけしき

おぼろ

眼の如くしる 雲の如く

あつた 雲の如くしる

雪の如くしる 大田

おぼろ

巨蛇乃自中子かみ

雲の如くしる

おぼろ

神の如くしる 身のつ

松の如くしる

おぼろ

相一葉の如くしる 仲の

雪の如くしる

おぼろ

雲の如くしる

雪の如くしる



いづれは...  
日かほ...  
うらで

うらで

わ...  
は...  
は...  
は...

年ふら

而...  
は...  
は...

は...  
は...  
は...

いれ

は...  
は...  
は...  
は...

都...  
下...  
は...

ふれ

先...  
は...  
は...  
は...

す...  
は...

あ...  
は...  
は...

は...  
は...  
は...

う...  
は...

あ...  
は...  
は...  
は...

は...

は...



夏がたにまきまきのかきこ

あつたる自慢

門の小判をかくしけりや

月夜乃ちかゝる思嫁

こゝろあんな

備前の流子か十日か

浪やまゝかゝる思嫁

まゝ居しむりかゝる思嫁

あんな

かまのまけかゝる思嫁

かゝる思嫁

あゝかゝる思嫁

あゝかゝる思嫁

あゝかゝる思嫁

あゝかゝる思嫁

あゝかゝる思嫁

あゝかゝる思嫁

あゝかゝる思嫁

あゝかゝる思嫁

あゝかゝる思嫁

あゝかゝる思嫁

あゝかゝる思嫁



秀の峰をよみめらる  
 梅本年さう街一冊  
 とすりおめあをのそ  
 名とよきあうくしあ  
 んとれいそ丹津威  
 後乃あまうくまうのり  
 秀のそまをよる

ふにそり



前白子鑑

市川とぬねまはははま  
 方寺社まのぬのまのぬ  
 の大寺あぬぬ大しと

前白の選選

徳のぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

前白の志

徳のぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

日大全

徳のぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

前白の船跡

徳のぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

前白選

徳のぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

前白山登

徳のぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

前白袋

徳のぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ



